

2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月13日

上場会社名 三菱製紙株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3864 URL <https://www.mpm.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 立藤 幸博
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 及川 浩典 (TEL) 03-5600-1407
 四半期報告書提出予定日 2020年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	41,173	△14.4	△1,479	—	△1,236	—	△1,661	—
2020年3月期第1四半期	48,098	△3.5	△599	—	△789	—	△1,181	—

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 △1,256百万円(—%) 2020年3月期第1四半期 △1,738百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	△37.21	—
2020年3月期第1四半期	△26.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	214,293	59,047	27.6
2020年3月期	212,217	60,527	28.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 59,044百万円 2020年3月期 60,525百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2021年3月期の配当予想につきましては未定です。決定次第お知らせいたします。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスの影響により、合理的な見通しを立てることが困難なため未定としております。業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期1Q	44,741,433株	2020年3月期	44,741,433株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	82,580株	2020年3月期	82,401株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期1Q	44,658,968株	2020年3月期1Q	44,660,765株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間は、新型コロナウイルスの感染拡大により日本経済および世界経済は急激に悪化し、当社グループを取り巻く環境も、外出制限・イベント中止などで、印刷・情報用紙の需要減退が加速し、画像出力用のイメージング分野も打撃を受けるなど、厳しい事業環境で推移いたしました。

このような状況下、当社グループは感染防止策を最優先にとるとともに、一時帰休等も行いながら需要動向に応じた生産体制を維持いたしました。

また、今年度は「新しいステージに立った事業基盤の強化と多様化」を基本方針とする「新中期経営計画」(2019年4月～2022年3月)の2年目として、「新中期経営計画」の3つの重点戦略である、

- ① 王子グループとのアライアンスによる強固な経営基盤の確立
- ② 既存事業の再構築と充実
- ③ 新たな収益の柱の育成による事業基盤の多様化

について、精力的に取り組みを進めました。

当第1四半期連結累計期間は、新型コロナウイルスの影響による洋紙やイメージング分野の大幅な需要減少により、連結売上高は411億7千3百万円(前年同四半期比14.4%減)となりました。

損益面では、固定費削減などのコストダウンや原燃料価格安の効果はありましたが、生産販売数量の減少の影響が大きく、連結営業損失は14億7千9百万円(前年同四半期は連結営業損失5億9千9百万円)、連結経常損失は12億3千6百万円(前年同四半期は連結経常損失7億8千9百万円)となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は16億6千1百万円となりました。

(紙・パルプ事業)

国内市場につきましては、印刷用紙、情報用紙ともに製品価格水準は維持しましたが、需要の落ち込みに加え新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく、販売数量、販売金額ともに減少しました。輸出につきましても販売数量、販売金額ともに減少しました。需要減退が想定以上に加速していることを受け、減産強化を継続し、需給引き締めを図ってまいりました。

欧州子会社につきましては、感熱紙を中心に販売数量が増加いたしました。資材価格の動向に応じた製品価格の低下、また為替の影響もあり、販売金額は減少いたしました。

市販パルプにつきましては国際市況の低迷により、販売数量、販売金額ともに減少しました。

以上の結果、紙・パルプ事業全体の売上高は319億5千2百万円と、前年同四半期比14.3%減となりました。

営業損失につきましては、前年同四半期の8億6千7百万円の損失から2億7千9百万円減益の11億4千7百万円の損失となりました。

新型コロナウイルス禍も相まって需要減退が加速する中、依然として非常に厳しい事業環境下にあります。今後も価格水準の維持を前提とした上で、需要動向に合わせた生産体制最適化と在庫水準適正化、物流費削減に加え、脱プラスチック事業としてのバリアコート紙や晒クラフト紙等の新商品拡販、王子グループとの協業強化等によりポートフォリオの転換を図り、早期に収益の安定化を目指してまいります。

(イメージング事業)

イメージング事業につきましては、世界各国の新型コロナウイルス感染拡大に伴い旅行やイベントの機会が激減し、国内市場、海外市場ともにその影響を大きく受けて画像出力用途を中心とする写真感光材料やインクジェット用紙の需要が落ち込み、販売金額は減少しました。

以上の結果、イメージング事業全体の売上高は69億6千万円と、前年同四半期比15.1%減となりました。

営業損失につきましては、前年同四半期の3千5百万円から6億2百万円減益の6億3千7百万円の損失となりました。

販売数量の減少に加え、生産設備の稼働率低下による生産コスト上昇などにより、減収減益となりました。業務用途のインクジェット用紙の新規開拓やアルコール除菌液など新型コロナウイルス感染症予防商品の販売を進めるとともに、一時帰休の実施や固定費削減に努めましたが、減収減益要因をカバーするには至りませんでした。

今後も、富士フイルム㈱とのアライアンスにより事業基盤を一層強固にして生産体制の効率化に取り組みつつ、印刷感材事業の子会社移管による販売体制の効率化を進めるとともに、海外顧客との協業体制構築に伴う販売力強化を推進し、収益の確保に取り組んでまいります。

(機能材事業)

機能材料につきましては、水処理膜支持体やバッテリーセパレータ、エアフィルターは増加しましたが、リライトメディアや建材用の不織布が減少し、販売金額は減少しました。

化学紙につきましては、主力の化粧板原紙やテープ原紙、壁紙用裏打紙等が減少し、販売金額は減少しました。

以上の結果、機能材事業全体の売上高は36億3千7百万円と、前年同四半期比14.5%減となりました。

営業利益につきましては、前年同四半期の2億7千万円から2千8百万円増加し、2億9千9百万円となりました。

販売金額の減少はありましたが、固定費削減などのコストダウン効果や原燃料価格安により増益となりました。

引き続き、水処理膜支持体の新規ユーザー獲得やMBR（膜分離活性汚泥法）膜用への展開、高耐熱のバッテリーセパレータの拡販、化粧板原紙やテープ原紙等の新規拡販とコストダウンに注力してまいります。

(倉庫・運輸事業)

倉庫・運輸事業の売上高は17億9千8百万円と、前年同四半期比9.4%減となりました。営業利益は前年同四半期の3千9百万円から3千1百万円減少し、8百万円となりました。

(その他)

工務関連子会社とスポーツ施設運営子会社の売上減少等により、売上高は13億9千6百万円と、前年同四半期比9.0%減となりました。営業損益は前年同四半期の1千7百万円の利益から3千4百万円減少し、1千7百万円の損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は、現金及び預金や有形固定資産等の減少はありましたが、受取手形及び売掛金等の増加により前連結会計年度末に比べ20億7千6百万円増加し、2,142億9千3百万円となりました。

負債は、有利子負債の増加等により前連結会計年度末に比べ35億5千6百万円増加し、1,552億4千6百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により前連結会計年度末に比べ14億8千万円減少し、590億4千7百万円となりました。

自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.9ポイント減少し、27.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大により日本経済や世界経済への深刻な影響が見込まれています。

当社におきましても、経済活動全般の萎縮に伴う印刷用紙・情報用紙の需要減少、世界的な旅行やイベントの激減による画像出力用途の写真感光材料・インクジェット用紙の需要減少などの影響が出ておりますが、現時点では合理的な業績予想が困難であることから、予想値の公表を見送らせていただきます。なお、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,260	6,851
受取手形及び売掛金	31,358	37,491
商品及び製品	30,138	28,411
仕掛品	7,066	7,018
原材料及び貯蔵品	11,278	11,965
その他	3,629	3,656
貸倒引当金	△157	△140
流動資産合計	92,576	95,254
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	24,459	24,044
機械装置及び運搬具（純額）	43,816	42,426
土地	21,898	21,841
建設仮勘定	467	1,281
その他（純額）	3,066	2,922
有形固定資産合計	93,708	92,517
無形固定資産		
その他	409	385
無形固定資産合計	409	385
投資その他の資産		
投資有価証券	15,763	16,712
その他	9,833	9,498
貸倒引当金	△74	△74
投資その他の資産合計	25,523	26,136
固定資産合計	119,641	119,039
資産合計	212,217	214,293

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,082	18,577
電子記録債務	3,934	3,514
短期借入金	64,267	61,989
コマーシャル・ペーパー	4,000	15,000
未払法人税等	431	210
その他	10,804	10,752
流動負債合計	105,519	110,045
固定負債		
長期借入金	33,495	32,840
退職給付に係る負債	9,423	9,233
資産除去債務	883	883
その他	2,366	2,242
固定負債合計	46,169	45,201
負債合計	151,689	155,246
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,561	36,561
資本剰余金	8,555	8,555
利益剰余金	13,719	11,834
自己株式	△152	△152
株主資本合計	58,684	56,799
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,206	1,748
為替換算調整勘定	1,095	933
退職給付に係る調整累計額	△461	△436
その他の包括利益累計額合計	1,840	2,245
非支配株主持分	2	3
純資産合計	60,527	59,047
負債純資産合計	212,217	214,293

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	48,098	41,173
売上原価	41,662	36,498
売上総利益	6,435	4,674
販売費及び一般管理費	7,035	6,154
営業損失(△)	△599	△1,479
営業外収益		
受取利息	13	9
受取配当金	233	262
持分法による投資利益	18	189
その他	106	82
営業外収益合計	371	543
営業外費用		
支払利息	264	200
為替差損	183	41
その他	113	59
営業外費用合計	561	300
経常損失(△)	△789	△1,236
特別利益		
固定資産処分益	3	7
投資有価証券売却益	47	0
その他	0	—
特別利益合計	51	7
特別損失		
固定資産処分損	198	201
その他	95	28
特別損失合計	294	229
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,032	△1,459
法人税等	138	202
四半期純損失(△)	△1,170	△1,661
非支配株主に帰属する四半期純利益	10	0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,181	△1,661

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純損失(△)	△1,170	△1,661
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△730	543
為替換算調整勘定	△55	△157
退職給付に係る調整額	218	24
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△5
その他の包括利益合計	△568	405
四半期包括利益	△1,738	△1,256
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,761	△1,257
非支配株主に係る四半期包括利益	22	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

退職給付に係る会計処理における数理計算上の差異の費用処理年数について、従業員の平均残存勤務期間が短縮したため、当第1四半期連結会計期間より費用処理年数を一部の海外連結子会社は9年から8年に変更しました。

この変更により、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ31百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙・パル プ事業	イメージ ング事業	機能材 事業	倉庫・ 運輸事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	36,301	6,639	3,500	1,247	47,688	409	48,098	—	48,098
セグメント間の内部 売上高又は振替高	982	1,554	752	736	4,025	1,125	5,151	△5,151	—
計	37,283	8,193	4,252	1,984	51,714	1,534	53,249	△5,151	48,098
セグメント利益 又は損失(△)	△867	△35	270	39	△592	17	△575	△24	△599

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、エンジニアリング業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△24百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△0百万円、セグメント間取引消去△23百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙・パル プ事業	イメージ ング事業	機能材 事業	倉庫・ 運輸事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	30,512	6,104	3,076	1,112	40,805	367	41,173	—	41,173
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,439	855	561	685	3,543	1,029	4,572	△4,572	—
計	31,952	6,960	3,637	1,798	44,348	1,396	45,745	△4,572	41,173
セグメント利益 又は損失(△)	△1,147	△637	299	8	△1,477	△17	△1,495	15	△1,479

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、エンジニアリング業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額15百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△0百万円、セグメント間取引消去15百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。